山村留学
ガイドライン

山村留学にチャレンジする
子どもたちと保護者のみなさんへ

特定非営利活動法人 **全国山村留学協会**

まえがき

山村留学は、自然豊かな農山漁村に一年単位で移り住み、地域の小中学校に通いながら、四季折々の自然の中で様々な自然体験活動や集団生活などを体験する教育活動です。

公益財団法人育てる会（東京都武蔵野市）が、昭和51年に長野県八坂村（現大町市八坂地区）で初めて実現させたこの教育活動は、現在では様々な団体が全国で運営しており、その運営方針や活動内容も地域の実情に合わせて変化してきました。

そのため、生活する場所や体験内容など、「山村留学 = すべて同じ」というわけではないのが現状です。

ですから、体験留学や現地の方との懇談をとおして各山村留学地の様子を正確に見極め、留学する子どもと保護者のみなさんの考えに合った山村留学地を選択することが、何よりの出発点であり最も大切なことです。

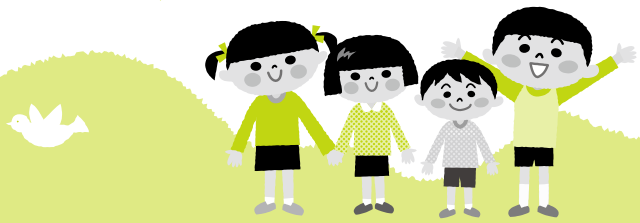
そこで当協会では、文部科学省より委託を受けて「山村留学ガイドライン」を策定しました。

本ガイドラインの項目の一つひとつには、山村留学にとって大切なポイントが綴られています。

山村留学を希望するみなさんにはチェックをしながら解説欄をご覧いただき、一つの判断材料として頂ければ幸いです。

平成28年2月

山村留学ガイドラインの策定と普及啓発事業推進会議
平成27年度 文部科学省委託事業
「体験活動推進プロジェクト」



※山村留学には様々な方式があり、方式によっては本ガイドラインのチェック項目に該当しない場合もありますので予めご了承ください。
（例：全寮制のため受入家庭がない、寮がないため指導員がいない等）

※本ガイドラインは山村留学のポイントをまとめたものです。
各山村留学地の内容の良し悪しを示すものではありません。

まえがき		1
もくじ		2
山村留学を成功させるために		6

1 運営団体

Q.1	運営団体は公に認められた団体ですか。	9
Q.2	運営団体は特定の宗教と深い関わりのない団体ですか。	9
Q.3	運営団体は山村留学の目的を文章化していますか。	9
Q.4	運営団体の責任者は明確になっていますか。	10
Q.5	運営団体の方針は多くの人が関わって決めていますか。	10
Q.6	連絡相談窓口は設置されていますか。	10
Q.7	運営団体はホームページ等で様々な情報を公開していますか。	11
Q.8	山村留学にかかる費用は明確になっていますか。	11
Q.9	保護者会は組織されていますか。	12
Q.10	留学を終えた後の同窓会組織はありますか。	12

2 運営状況

Q.1	施設や受入家庭の周辺は、自然遊びができる環境ですか。	14
Q.2	毎年、山村留学生は概ね５人以上いますか。	14
Q.3	２年目以降に継続することができますか。	15
Q.4	留学前の体験留学を行っていますか。	15
Q.5	施設がある場合、山村留学の専用施設として使用されていますか。	16
Q.6	多様な活動を実施するための設備や備品が整っていますか。	16
Q.7	山村留学中の子どもの様子を定期的に情報発信していますか。	17
Q.8	保護者が山村留学地を訪れる機会は学期に一度程度ありますか。	17
Q.9	留学に関わる施設や学校、行政等で情報は共有されていますか。	18
Q.10	途中入退園ではなく、年度単位での留学が推奨されていますか。	18

3 指導員

Q.1	専従の指導員が配置されていますか。	20
Q.2	複数の指導員が山村留学に関わっていますか。	20
Q.3	概ね留学生６人に対して１人以上の指導員配置になっていますか。	21
Q.4	山村留学指導員として少なくとも３年程度の職歴がある人がいますか。	21
Q.5	男女比を考慮した男性及び女性指導員の配置になっていますか。	22
Q.6	食事の提供をする専従スタッフがいますか。	22
Q.7	留学を決める前に、指導員と懇談する機会が設けられていますか。	23
Q.8	指導員の留学生に対する言動や行動に不安を感じることはありませんでしたか。	23
Q.9	活動を実施するための知識や技術の定期的な研修は行われていますか。	23
Q.10	指導員は地域活動に参加していますか。	24

4 受入家庭・地域

Q.1	経験豊富な受入家庭がありますか。	26
Q.2	受入家庭は、地域に根付いている人ですか。	26
Q.3	地域の人が活動指導を行う場面はありますか。	26
Q.4	受入家庭では、休日等に野外での活動が組まれていますか。	27
Q.5	受入家庭では、栄養面を考慮した食事が提供されていますか。	27
Q.6	複数の受入家庭で情報を共有する連絡会はありますか。	28
Q.7	受入家庭では、テレビや漫画を見ることに一定のルールがありますか。	28
Q.8	受入家庭では、山村留学生が家族の一員になっていますか。	29
Q.9	地域の行政組織の中に山村留学の担当者はいますか。	29
Q.10	地元児童生徒が山村留学プログラムに参加する機会はありますか。	30

5 安全管理

Q.1	近隣に 24 時間体制の医療機関がありますか。	32
Q.2	山村留学施設にはＡＥＤが設置されていますか。	32
Q.3	救急法を受講したスタッフが配置されていますか。	32
Q.4	定期的に避難訓練が実施されていますか。	32
Q.5	山村留学施設には火災報知器等の防災設備が整っていますか。	32
Q.6	下見や危険予知等が含まれた活動指導書が作成されていますか。	33
Q.7	食事提供における衛生管理はされていますか。	33
Q.8	生活スペースは男女の区分けがされていますか。	34
Q.9	緊急時に対応できる連絡体制が構築されていますか。	34
Q.10	山村留学中は傷害保険に加入していますか。	35

6 学校

Q.1	通学中に様々な自然と触れ合うことができる環境ですか。	37
Q.2	学校と指導員や受入家庭で情報を共有する連絡会はありますか。	37
Q.3	山村留学の窓口となる担当教職員はいますか。	38
Q.4	ホームページ等で学校の運営状況が公開されていますか。	38
Q.5	教職員が山村留学の体験活動の場に参加する機会はありますか。	39
Q.6	留学決定前に教職員と懇談する機会が設けられていますか。	39
Q.7	学校の運営や授業に地域の人が関わっていますか。	40
Q.8	山村留学生の保護者が学校行事に参加する機会はありますか。	40
Q.9	教職員は山村留学を理解し支援していると感じましたか。	41
Q.10	地元ＰＴＡは山村留学を理解し支援していると感じましたか。	41

7 体験活動

Q.1	教育理念や運営方針に基づいた体験活動が組まれていますか。	43
Q.2	年間の活動カリキュラムは作成されていますか。	43
Q.3	起床や消灯など、決められた規則正しい生活をしていますか。	44
Q.4	伝統文化に触れる体験活動はありますか。	44
Q.5	食を題材にした体験活動はありますか。	45
Q.6	農作業などの生産活動に携わる体験活動はありますか。	45
Q.7	地域の特色を活かした体験活動はありますか。	46
Q.8	十分な指導技術のある指導者の元で活動が行われていますか。	46
Q.9	地域外で実施する広域的な活動はありますか。	47
Q.10	以下の体験例を 20 個以上体験できますか。	47

［自然体験活動］

テント泊	集団キャンプ	一人キャンプ	雪中キャンプ	野外炊飯	登山
長距離歩き	ドラム缶風呂	野鳥観察	植物観察	星空観察	蛍狩り
暗闇体験	乗馬	陶芸	昆虫採集	クラフト体験	洞窟探検
クライミング	陶芸	草木染	ナイトハイク	カヌー	シーカヤック
ヨット	ラフティング	いかだ下り	湖水浴	川遊び	釣り
アルペンスキー	ノルディックスキー	雪遊び	海水浴	素潜り	木登り

［食に関する活動］

キノコ狩り	果樹酒作り	木の実採り	山菜採り	りんご狩り	味噌作り
郷土料理作り	魚の干物作り	豆腐作り	漬物作り	納豆作り	餅つき
野菜の冬囲い	干し柿作り	動物の解体	潮干狩り		

［伝統文化活動］

和太鼓	民舞	どんど焼き	わら細工	座禅	写経
地蜂とり	囲炉裏体験	民話を聞く	昔の遊び体験	秋（春）祭り	しめ縄作り
野焼き	箱膳体験	遺跡めぐり	カルタとり		

［農林漁業の体験］

稲作	畑作	草刈り	木の枝打ち	投網	キノコの植菌
炭焼き	地引網	魚を捌く	植林		

［生活体験］

集団生活	ホームステイ	食事の配膳	食器洗い	洗濯	集団入浴
食事の調理	布団敷き	掃除	雑魚寝		

［その他］※上記は一例です。その他の活動は下記に記入してカウントしてください。

山村留学を成功させるために

～ 山村留学にチャレンジするみなさんへ ～

子どもたちへ

「山村留学したい！」という気持ち

子どもたちは新しい学校生活や初めて会う人との生活に不安を感じるでしょう。小中学生という年齢を考えればこれは当たり前のことです。しかし、その気持ちの中に少しでも「やってみたい」という思いがあれば、山村留学の生活を楽しむ原動力になります。

「親に勧められたから」「ただなんとなく」というのではなく、しっかりと目的をもって山村留学にチャレンジすることがとても大切なことなのです。

- あなたは今、山村留学に行きたいと思っていますか？
- あなたが山村留学に行くのは、何が目的ですか？

保護者の方へ

保護者の理解と協力

保護者の方が山村留学の主旨をしっかりと理解するとともに、山村留学に行かせる目的と合致した留学地を選ぶことも、お子さんの山村留学を成功へと導くために必要不可欠なことです。

また、留学中も現地と様々な交流をして協力することは、子どもの心の安定にも繋がりますし、保護者のみなさんにも豊かな体験を提供してくれるはずです。

山村留学は子どもだけのためではなく、家族全体の活動とも言えるのです。

- 自分の目的と、山村留学地の体験内容や運営方針は合致していますか？
- 子どもが成長する上で、自然と触れ合うことは大切と思いますか？
- 集団生活を通して他人と生活することは、子どもの自立を促すと思いますか？
- 受入家庭や学校教職員、指導員と話をして、信頼できると思いましたか？

1 運営団体

Q.1 運営団体は公に認められた団体ですか。

Q.2 運営団体は特定の宗教と深い関わりのない団体ですか。

A. 山村留学は、公益法人や教育委員会、地域住民組織、NPO 法人など、様々な団体が運営しています。

公に認められた団体の場合は、社会的な信用度も高く、しっかりとしたシステムの上で運営されていることが期待できます。

また特定の宗教との関わりが深いと、純粋な教育活動が損なわれる場合もあるので注意が必要です。

POINT **どのような団体が運営しているか、確認しましょう。**

Q.3 運営団体は山村留学の目的を文章化していますか。

A. 山村留学は青少年教育活動として創設されましたが、小規模校対策や過疎対策として開設されるなど、地域の実情に合わせた様々な目的と形態の中で運営されています。

運営サイドがどの点に重点を置いて活動しているのかを知らずに参加することは、意見の食い違いに繋がる可能性があり、「折角参加したのに残念だった」などという結果にもなりかねません。

子どもの力を育む教育活動として運営されているのか、もしくはそれ以外の目的もあるのかなど、口頭ではなくしっかりと文章化されていることが重要です。

POINT **参加者の期待と運営サイドの方針とのギャップを避けるために。**

Q.4 運営団体の責任者は明確になっていますか。

Q.5 運営団体の方針は多くの人が関わって決めていますか。

A. 山村留学は１年間という長期間の体験プログラムです。

保護者の元を離れての生活が続きますので、運営責任者と直接会って話すことができたり、責任の所在がはっきりしていれば、万一のトラブルの際にも迅速な対応が期待できます。

また、特定の人物のみの意見や方針で運営されるのではなく、複数の関係者による協議によって運営方針が決定されていることは、トラブルを未然に防ぎ、安定的な運営を続けるためには欠かせません。

POINT **運営責任者が明確で公正な運営がされていることが大切です。**

Q.6 連絡相談窓口は設置されていますか。

A. 山村留学中は、保護者は期待と不安の中で子どもを見守ることになります。

子どもの生活や心の様子、学校のこと、運営内容に対する疑問や要望など、些細なことも気軽に相談できる環境がなければ、子どもが安心して留学生活を続けるための、保護者と運営者の信頼関係が築き辛くなる可能性がありますし、運営の実態が外部に伝わり難く、不透明な運営に陥りやすくなります。

POINT **些細なことも気軽に相談できる、窓口が必要です。**

Q.7 運営団体はホームページ等で様々な情報を公開していますか。

A. 運営の透明性は、団体の信頼度といっても過言ではありません。

例えば、財政状況が悪ければ年度途中での事業中止や次年度での廃止など、子どもや保護者の期待に応えられないケースが出るばかりではなく、金銭トラブルなどにも発展する可能性もあります。

また、団体のメンバーにどのような人が関わっているのかも重要なポイントです。

健全な運営は、健全な指導を生み、教育活動の充実に繋がっていきます。

POINT **情報を公開している団体は、それだけ運営の透明性が高く安心です。**

Q.8 山村留学にかかる費用は明確になっていますか。

A. 山村留学は、保護者の費用負担によって運営されています。そのため、費用の詳細について、事前にしっかりとした説明があることが大切になります。

例えば、月々の月謝以外にも、学校関係の費用や個人的な費用（通院や文具購入費など）がかかる場合がありますし、保護者が現地を訪れる際の旅費なども、想定しておく必要があります。

費用面での疑問や不安を解消するためにも、不明な点は確認しましょう。

POINT **月謝以外にも費用が発生する場合があるので確認しましょう。**

Q.9 保護者会は組織されていますか。

A. 山村留学は子どもだけのものではありません。保護者も運営に協力しながら、地域の人や同じ保護者同士と様々な交流を行っていく必要があります。

そうした中では、全ての保護者が山村留学の趣旨を理解し、足並みを揃えて関わっていくことが大切です。そうすることによって一体感が生まれ、子どもの心の安定と統一された指導に繋がるからです。

また、保護者会が組織されていると、保護者同士の悩みを共有するなど、一人では解決できない問題に対して、様々な人の意見を取り入れながら対処することができます。

POINT **保護者の一体感こそが、山村留学をより充実させる鍵になります。**

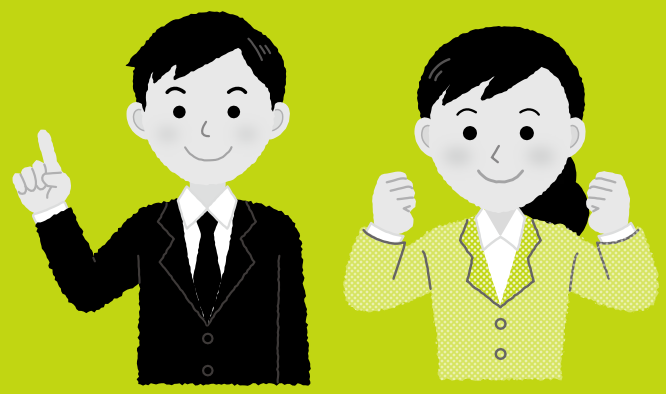
Q.10 留学を終えた後の同窓会組織はありますか。

A. 多くの山村留学を終えた子どもたちが、留学地に対して親しみと愛着を感じています。これは１年間という長期の生活体験があるからです。また、留学生同士の繋がりも強く、大人になっても様々な交流に発展する可能性を多く含んでいます。

同窓会を組織している運営団体では、留学を終えた活動をサポートする体制があるため、一時的な交流ではなく将来に渡っての交流となり、都市農山漁村交流や生涯学習の観点からも望ましいことといえます。

POINT **子どもの心の故郷となり、山村留学地との繋がりは留学を終えても続きます。**

2 運営状況



Q.1 施設や受入家庭の周辺は、自然遊びができる環境ですか。

A. 山村留学とサマーキャンプなどの短期的な活動の大きな違いは、そこに「日常」が加わることです。

1年間地域に生活しているからこそ、日々四季の変化を感じ、有り余る自然を享受出来るのです。

特別な場所に行かなくても、日々自然と触れられる環境があることは、子ども一人ひとりの興味関心を伸ばし、無限の可能性を広げてくれます。

POINT **日常の自然こそ山村留学の醍醐味です。**

Q.2 毎年、山村留学生は概ね５人以上いますか。

A. 山村留学では、野外活動による体験の蓄積だけでなく、集団生活においても様々な心身の成長を促すことができます。

留学生同士の生活の中から、人づきあいや思いやりの心、自分の心をコントロールする力などを、1年間という長い時間の中で学ぶのです。そのため、一人や二人の留学生ではなく、ある程度の人数がいることで、より多くの教育効果が得られると考えられます。

また一方で、毎年ある程度の留学生がいる山村留学地は、内容において子どもや保護者から評価されているという見方もできます。

POINT **より高い教育効果を得るためには、ある程度の留学生数が欠かせません。**

Q.3 2年目以降に継続することができますか。

A. 山村留学は1年単位ですが、1年目は活動のすべてが目新しく、また個人差もありますが生活に慣れるのに一定の時間を要する場合があります。

2年目以降になると生活にも慣れ、四季折々の活動についても、1年目の経験を活かしながらより自分の興味関心に沿って自発的に取り組める子どももいます。

そのため、継続の可否も子どもによっては重要な要素になります。

また、小学生のみを対象とした山村留学地の場合、継続して中学校も山村留学を希望するかどうかという点についても、留学地選びの段階で考えておかなければなりません。

POINT **より自発的に生活を送るには、年数が必要な場合もあります。**

Q.4 留学前の体験留学を行っていますか。

A. 山村留学は長期間にわたる体験活動です。どんなところで生活をするのか、学校はどうなのか、預かる指導員や地域の人はどうなのかなど、不安材料はたくさんあるでしょう。

そうした不安を和らげるためにも現地を訪れる体験留学はぜひ必要な事ですし、参加する側と受け入れ側が事前に細かく話し合うことで、その山村留学地の主旨を理解でき、留学後のトラブルの回避にも繋がります。

POINT **百聞は一見に如かず、人・自然・施設を確認することが大切です。**

Q.5 施設がある場合、山村留学の専用施設として使用されていますか。

A. 山村留学施設は、子どもたちにとっては生活をする大切な「家」です。公民館や民宿などを間借りしているなど留学生以外の人が寝泊まりしている施設では、山村留学の教育方針に沿った生活が送れないこともあります。また留学生と入居者との間でトラブルが発生することも懸念されるため、山村留学生専用の施設が望ましいといえます。

POINT **寮などの施設は子どもたちの「家」と考えてください。**

Q.6 多様な活動を実施するための設備や備品が整っていますか。

A. 山村留学中は、様々な体験活動（自然体験、地域活動、文化活動など）が実施されます。そうした活動を充実させるためには、例えばキャンプ道具などの備品や炭焼き体験の小屋などの周辺施設が必要になってきます。

また寝泊りをする施設についても、雨天時の活動を考慮したスペースなども必要になってくるでしょう。

こうした設備や備品が充実していれば、様々な体験活動を留学生に提供できるのです。

POINT **活動の幅を広げるためにも、多彩な活動を実施できる環境が必要です。**

Q.7 山村留学中の子どもの様子を定期的に情報発信していますか。

A. 山村留学では子どもの自立心を養うことを大きな目的としています。そのため、保護者への報告が多すぎるとかえってマイナスになるかもしれません。しかし、離れて暮らす子どもの情報が全く伝わらないと、保護者の不安に繋がり望ましいとはいえません。

定期的な報告文書や活動の様子をブログで伝えるなど、月一回程度の情報発信は必要です。また、保護者だけでなく地域の人や学校などにも情報を発信すると、地域の理解促進に繋がり、留学制度全体のフォローアップにも効果があるでしょう。

POINT **留学中の子どもの様子を知る手段は、多い方がいいでしょう。**

Q.8 保護者が山村留学地を訪れる機会は学期に一度程度ありますか。

A. 子どもだけを預かる山村留学でも、保護者が全く関与しないというわけではありません。地域・指導員・学校などと一体となって子どもを見守ることで、留学生活を充実させることに繋がります。

保護者が積極的に地域の人と交流したり、活動や学校行事、地域行事に関与したりすることは、とても大切な事なのです。

POINT **山村留学は、保護者も現地と一体となって子どもを育てるシステムです。**

Q.9 留学に関わる施設や学校、行政等で情報は共有されていますか。

A. 山村留学の生活には様々な体験活動の場があり、その中で人づきあいを学ぶなどの心の成長が促されるわけですが、その過程で一喜一憂することもあるでしょう。そうした時に大切なことは、指導員や受入農家、学校教職員、地域の人などが、子どもを見守る一員として常に情報を共有し、同じスタンスで関わっていくことです。

　そのため、常に連絡を取り合い、子どもの変化を日々共有していくことが必要です。

POINT **山村留学に関わる人が、子どもの情報を共有することが大切です。**

Q.10 途中入退園ではなく、年度単位での留学が推奨されていますか。

A. 山村留学は１年単位で実施されており、集団生活などを通してお互いに切磋琢磨しながら生活しています。そうした生活の中では子ども同士の繋がりも強固になり、そのことが人づきあいを学ぶ大きな原動力にもなっています。

　年度途中では集団形成が進んでいることもあるため、出来るだけ同時にスタートすることが、よりスムーズに生活と集団に慣れることに繋がるでしょう。

　また、１年間やり遂げたという体験は、大きな達成感を生み自信にも繋がります。

POINT **出来るだけ年度途中の入退園は、避けるべきでしょう。**

3 指導員

Q.1 専従の指導員が配置されていますか。

A. 日々の連絡や子どもの状況把握、活動の適切で安全な指導などを実現するためには、責任を持って取り組む専従指導員の存在が不可欠です。

指導の一貫性を保ち、最良の方向性を見出すためにも、こうした指導員が責任を持って山村留学全般に関わる必要があるのです。

POINT **責任を持って山村留学に専従する指導員が必要です。**

Q.2 複数の指導員が山村留学に関わっていますか。

A. 一人の指導員の考えだけで生活や活動、子どもへの指導を決定してしまうと、偏った指導や地域・学校との連携の不備、保護者との感情的な対立などに陥りやすくなります。

また、子ども一人ひとりの個性特性を見据えて指導していくためにも、複数の指導員が関わることはとても大切なことです。指導員間で情報を共有し、適切なコミュニケーションが図られていることが重要なのです。

POINT **子ども一人ひとりの個性特性に応えるためにも必要です。**

Q.3 概ね留学生６人に対して１人以上の指導員配置になっていますか。

A. 細かな生活面のフォローや安全面を考えると、１人の指導員が指導できる留学生数は６人程度と考えられます。

各指導員の力量も考慮するべきではありますが、24 時間生活を共にしながらの指導になるので、指導員のサポートはより細かくなる必要があるのです。

POINT **安全かつ適切な指導を行うために大切です。**

Q.4 山村留学指導員として少なくとも３年程度の職歴がある人がいますか。

A. 指導員としてある程度の指導力を発揮するには、少なくとも 3 年程度の経験が必要です。何故ならば、活動指導、生活指導、子どもの悩み相談、保護者や学校への対応、渉外活動など、身に付けなければならないスキルは数多く存在するからです。

一方、指導員は子どもたちにとって時には親代わりになり、時にはお兄さんお姉さん代わりとなって子どもと接する必要もあります。ですから職歴が浅い指導員にも役割があり、大切なのはまとめ役となる指導員の力量になってくるのです。

POINT **指導員には多くのスキルが必要となり、ある程度の経験が必要です。**

Q.5 男女比を考慮した男性及び女性指導員の配置になっていますか。

A. 留学生の男女比に見合った男性・女性双方の指導員が配置されていなければならないのは勿論ですが、男子ばかりの施設だからといって女性指導員がいなくてもいいのかというと、決してそうではありません。これは逆の場合も同じことがいえます。

保護者と離れた生活を送る留学生は、指導員に対して時には父性的な交流を求める場面もあるでしょうし、母性的な交流を求めることもあるでしょう。

ですから双方の指導員がいることが、留学生の心の安定にとっては必要といえます。

POINT **男性指導員、女性指導員の双方が、適正にいることが望ましいです。**

Q.6 食事の提供をする専従スタッフがいますか。

A. 活動の一環として子どもたちが食事作りをしたりすることはとても良いことですが、日々の生活の中では、子どもの負担にならない程度にすることが大切です。

衣食住といった生活の基礎部分はしっかりと大人が担うことで、子どもの成長を支えることができると同時に、そのことが子どもの生活や活動での余裕に繋がるのです。

また、栄養面や衛生面、地産地消など食育の観点からも、食に取り組む専従スタッフがいることは、食事環境の充実と子どもの成長に大いに役立ちます。

POINT **成長期の子どもにとって、日々の食事はとても重要な要素です。**

Q.7 留学を決める前に、指導員と懇談する機会が設けられていますか。

Q.8 指導員の留学生に対する言動や行動に不安を感じることはありませんでしたか。

A. 子どもたちは、指導員の人柄や考え方に大きく影響を受けます。これは生活を共にするという物理的な要素だけでなく、小中学生という多感な時期に、大人モデルとして一番近い存在になり得るからです。

一方、保護者と指導員の間に強い信頼関係がなければ、留学中の指導や子ども自身の留学に取り組む姿勢に影響が出てしまいます。

そのため、保護者は留学を決める前に指導員とじっくりと懇談をし、その指導員に信頼感を持って子どもを預けられるかどうか判断することが大切なのです。

POINT **山村留学の効果を高めるのは、指導員の質と強い信頼関係です。**

Q.9 活動を実施するための知識や技術の定期的な研修は行われていますか。

A. 指導員は子どもたちの興味関心を引き出し、課題や目標を投げかける存在であるべきと考えます。

そのためには、自然や地域のあらゆる事象にアンテナを張り巡らせ、体験活動に生かせるスキルを習得し続けるとともに、心のケアなどのスキルも含めて、日々向上心を持って取り組むことが大切です。

また、その成果を子どもにフィードバックすることは、子どもの体験の幅を広げ、より豊かな体験の蓄積へ繋がるのです。

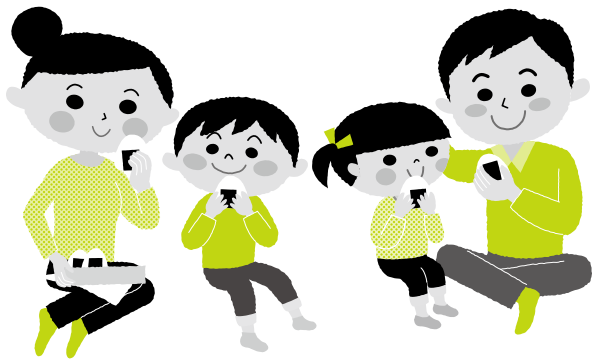
POINT **常に新しいことを取り込み、子どもにフィードバックする努力が大切です。**

Q.10 指導員は地域活動に参加していますか。

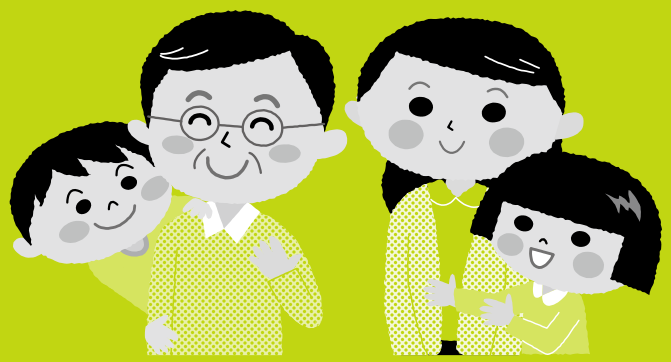
A. 山村留学は地域と切り離しては考えられません。地域の協力を仰ぎ、地域に残る自然や人材を体験活動に積極的に取り込むことが、本物の自然と地域文化を子どもたちに提供する最善の方法です。

そのため、地域活動に携わる中で積極的に地域の人と交流し信頼関係を築くことは、深みのある山村留学には欠かせないことなのです。

POINT **指導員は地域との橋渡し役であれ。**



4 受入家庭・地域



Q.1 経験豊富な受入家庭がありますか。

A. 受入経験が豊富な家庭は様々な子どもの事例を持っており、過去の事例と照らし合わせながら、適切に指導してくれる可能性が高くなります。

また、そうした家庭が経験の浅い家庭をフォローアップすることで、受入家庭全体の質の底上げと地域への拡大に繋がります。

POINT **対応する子どもの幅を広げ、全体の底上げにも必要な存在。**

Q.2 受入家庭は、地域に根付いている人ですか。

Q.3 地域の人が活動指導を行う場面はありますか。

A. 地域文化を体験したり、その特色を山村留学に生かしていくためには、ある程度の期間、地域で生活を送ってきた人が受入家庭となることが望ましいです。それは地域に根付いている家庭だからこそ、地域の本物の生活を子どもたちに提供できるからです。

また、そうした人を含めた地域の人が、生業としている農作業の指導を行ったり、長きにわたって受け継がれてきた文化活動の指導を行ったりすることは、指導員などがどれだけ技術を積んでも乗り越えられない、本物としての迫力に満ちています。

それこそが、山村留学の素晴らしい教育環境であり、子どもたちの心に響くのです。

POINT **地域の特色を十分理解し、より本物の文化体験を提供するために。**

Q.4 受入家庭では、休日等に野外での活動が組まれていますか。

A. 留学中にいったいどんな体験ができるのか。これが山村留学の一番のポイントです。その中には集団生活や受入家庭での心温まる交流も含まれるでしょう。しかしそれだけでは充実した体験とはいえません。自然体験や地域活動など、休日を利用した体験活動の場があることが大切です。

休日には家でテレビやゲーム・漫画などで時間を過ごすというのでは、本来の山村留学の姿とはいえないのです。

POINT **山村留学の目的は体験です。生活することだけではありません。**

Q.5 受入家庭では、栄養面を考慮した食事が提供されていますか。

A. 成長期の子どもなので、インスタント食品は避けるなど最低限の栄養バランスは考慮しなければなりませんが、かといって毎日の食卓に豪華な食事が並ぶ必要は全くありません。

地産地消を主とした地域の食文化を取り入れた食事内容が望ましいでしょう。

POINT **成長期の子どもに見合った栄養バランスと、地域性豊かな食の提供が大切です。**

Q.6 複数の受入家庭で情報を共有する連絡会はありますか。

A. 複数の受入家庭がある場合は、運営方針や指導方法の捉え方について、各家庭によって差が出てしまうことがあります。これにより体験活動内容に差が生じることが危惧されます。

そのため、定期的に受入家庭同士が情報交換をして共通理解を深め、互いの悩みを相談するなどして、留学生の生活が充実した内容になるように意思疎通を図ることが大切です。

POINT **各家庭の繋がりを密にすることで、体験内容に差が出なくなります。**

Q.7 受入家庭では、テレビや漫画を見ることに一定のルールがありますか。

A. テレビやゲーム、漫画などに没頭してしまう状況は、留学中は出来るだけ避けなければなりません。そうしたことに縛られてしまうと、自然の中で遊びを見出し仲間とともに工夫しながら遊ぶという、子どもが本来持っている力を発揮できなくなってしまいます。

全く禁止というわけではなくても、ある程度のルールを設けていることが大切です。

POINT **子ども本来の遊びの力を引き出すために。**

Q.8 受入家庭では、山村留学生が家族の一員になっていますか。

A. 受入家庭の一員になって生活することで、本当の意味での家族体験や交流が生まれてきます。食卓を別にしていたり、お手伝いなどの家庭内での仕事がなかったり、悪いことには毅然とした態度で叱るなどの躾がない場合はそれが難しくなります。

そうなれば受入家庭での生活の魅力は半減してしまうでしょう。

POINT **家庭の子になりきれる環境かどうかが大切です。**

Q.9 地域の行政組織の中に山村留学の担当者はいますか。

A. 学校や地域との関わりが深い山村留学では、運営団体が民間や地域住民であっても、教育委員会などの行政組織の役割が重要になります。また、様々な調整やトラブル対応などを行う際に、担当者がいない場合は話が進まない可能性もあります。

担当者の有無で、行政が山村留学にどの程度責任をもって支援しているのかが分かるのです。

POINT **行政が責任を持って山村留学を支援しているか確認しましょう。**

Q.10 地元児童生徒が山村留学プログラムに参加する機会はありますか。

A. 地元ＰＴＡや児童生徒の山村留学に対する姿勢は、留学生や保護者にとっても重要な要素になります。

そうした中、地元児童生徒が参加する活動や交流が行われている場合、地域の山村留学に対する感情は比較的良好な場合が多く、且つ積極的に山村留学制度を地域に浸透させようとする運営サイドの意図が見えてきます。

地域理解の増進は、山村留学に対する支援の輪へと繋がるのです。

POINT **山村留学の体験を地域にも還元することで、支援の輪が広がります。**

5 安全管理

Q.1 近隣に24時間体制の医療機関がありますか。

Q.2 山村留学施設にはＡＥＤが設置されていますか。

Q.3 救急法を受講したスタッフが配置されていますか。

Q.4 定期的に避難訓練が実施されていますか。

Q.5 山村留学施設には火災報知器等の防災設備が整っていますか。

A. 長期間生活をしていれば、病気や怪我に見舞われる場面も出てくるでしょう。その際に迅速な対応が出来なければ、子どもの安全という大前提が崩れてしまいます。

特に山村留学の場合は、宿泊を伴っていますので、いつ何時でも対応できる医療機関の存在は不可欠になります。

また、医療機関の支援を受ける前段階として、施設内にＡＥＤが設置してあるか、指導員や受入家庭が救急法の研修を受けているかなども、万一の備えとして確認する必要があるでしょう。

更に、子どもの安全意識を高め、自己防衛の心を養うためにも避難訓練や施設周辺のハザードマップの作成と指導は必要ですし、火災報知機をはじめとした防災設備についても、しっかりと確認しましょう。

POINT **万一の場合の備えは必ず確認しましょう。**

Q.6 下見や危険予知等が含まれた活動指導書が作成されていますか。

A. 活動にはすべて目的があります。その目的とそれによる子どもへの教育効果、指導方法などを明記した活動指導書が作成されていると、指導する者の共通理解にも繋がり、円滑な活動指導に役立ちます。

また、安全に活動を終えるためには、あらゆる場面を想定して危険予知をしなければなりません。

フィールド、道具類、天候などの危険要素を事前に想定し、それを活動指導書に明記しておくことは、万一の場合の対応に役立つだけでなく、指導する者の意識向上にも繋がるのです。

POINT **活動における危険予知は、安全に活動を成功させるための第一歩です。**

Q.7 食事提供における衛生管理はされていますか。

A. 山村留学施設は集団生活を送る場であり、且つ様々な関係者が出入りする施設でもあります。

そのため、食事に起因した食中毒や、伝染病の蔓延などには細心の注意を払わなければなりません。

食材の管理保管方法、手洗いうがい指導、保健所の定期的な監査など、外部の協力も含めた衛生管理は徹底される必要があります。

POINT **食中毒や集団感染などを避けるために。**

Q.8 生活スペースは男女の区分けがされていますか。

A. 最近では、年少の子どもでも男女の区別を明確にする時代になってきました。まして山村留学では中学生までが、同じ屋根の下で集団生活を送っているケースも多くあります。

男女間の不要なトラブルを避けるためにも、共用スペース以外は明確に男女の区分けがなされていることが大切です。

POINT **男女間の不要なトラブルを避けるために。**

Q.9 緊急時に対応できる連絡体制が構築されていますか。

A. 緊急時には、指導員や受入家庭、学校、地域、行政、保護者が素早く連絡を取り合って対応しなければなりません。連絡体制が構築されていないと情報の伝達に時間がかかり迅速な判断が出来ないため、対応が遅れがちになることも考えられます。

POINT **迅速な対応を行うためには、素早い情報伝達手段の確立が大切です。**

Q.10 山村留学中は傷害保険に加入していますか。

A. 山村留学中の怪我に対応するため、傷害保険に加入しているかどうかは、必ず運営団体に確認するようにしましょう。補償内容や手続き方法などの詳細についても把握しておくと安心です。

POINT **保険の加入は必須です。**

6 学校

Q.1 通学中に様々な自然と触れ合うことができる環境ですか。

A. 山村留学では「道草」をとても大切にしています。何故なら、通学中の時間は一人ひとりの興味関心を引き出すのに最適な環境だからです。ですから、出来れば2km程度の通学距離で、且つ自然を肌で感じられる徒歩通学が望ましいでしょう。

毎日通学する中で日々移り変わる自然の変化を感じ、時には木の実を採ったり、虫を捕まえたりして歩くことは、子どもにとって何よりも変えがたい貴重な時間になるはずです。

POINT **通学中は興味関心を伸ばす貴重な時間です。**

Q.2 学校と指導員や受入家庭で情報を共有する連絡会はありますか。

A. 山村留学は義務教育期間中の小中学生が対象です。ですから当然留学生の生活の大半は学校で過ごすことになり、教職員との情報共有は大切になってきます。

担任など直接関わる教職員との日々の連絡体制だけでなく、受入家庭や教職員、指導員が集まっての全体連絡会があれば、子どもを見守る目が増えるとともに指導にも一貫性が出てきます。

POINT **一日の大半を過ごす学校との連携は大切です。**

Q.3 山村留学の窓口となる担当教職員はいますか。

A. 山村留学の子どもたちは、地元児童生徒と違って特殊な環境で生活をしながら学校生活を送っています。

そのため、山村留学そのものを十分に理解しそれを支援する担当教職員が窓口となって、様々な案件に対処していくことが大切です。

そうすることで、学年間や担任教師の考え方の違いなどによるばらつきを防ぐことができます。

また、担任と保護者など当事者同士ではなかなか言えないことがあっても、相談に乗ってもらうなどの対応が期待できます。

POINT **学校に山村留学をしっかりと理解し、支援する体制が必要です。**

Q.4 ホームページ等で学校の運営状況が公開されていますか。

A. 日々の学校生活の様子などをホームページなどで確認できれば、離れて暮らす保護者にとっては安心感に繋がります。

また情報発信を盛んに行っている学校は、運営にも透明性があり保護者の信頼感が増します。

POINT **開かれた学校運営は、離れて暮らす保護者には重要な要素です。**

Q.5 教職員が山村留学の体験活動の場に参加する機会はありますか。

A. 教職員が山村留学の体験活動に一緒に参加していたり、寮などに泊まったりする機会が多ければ、山村留学のシステムや子どもたちの様子をより理解してもらえることが期待できます。

また、数年で変わってしまう教職員に対して、山村留学を理解してもらうためにも有効な手段です。

POINT **山村留学に教職員が触れる機会は、多ければ多いほど良い。**

Q.6 留学決定前に教職員と懇談する機会が設けられていますか。

A. 指導員や受入家庭と同様に、子どもを預けるにあたっては、教職員がどんな考えを持ちどのような人柄であるか、子どもと良好な関係を築ける人なのか、保護者が信頼できる人なのかが重要な要素になってきます。

学校教職員の考えや人柄を事前に把握するためにも、体験留学などの際にしっかりと懇談をして見極める必要があります。このことは、留学中のトラブルを避けるためにも大切なことです。

POINT **安心して子どもを送り出せる学校かどうかをしっかりと判断しましょう。**

Q.7 学校の運営や授業に地域の人が関わっていますか。

A. 地域のお年寄りが課外授業の指導をしたり、第三者が集まって学校の運営を評価したりする機会があれば、保護者の意見も受け入れられやすく、地域の特色を活かした柔軟な学校運営に繋がります。

POINT **地域との繋がりの深さは、特色ある学校運営のポイントです。**

Q.8 山村留学生の保護者が学校行事に参加する機会はありますか。

A. 山村留学の様々な体験活動だけでなく、学校行事などにも保護者が参加することは大切なことです。

保護者が参加することで、子どもに安心感が生まれるだけでなく、教職員との懇談や地元ＰＴＡとの交流も深まり、子どもの様子の把握と的確な指導にも繋がります。

留学中は一度も学校を訪れなくても構わないという姿勢の学校は、かえって心配な場合があることを保護者も認識しておかなければいけません。

POINT **学校行事には可能な限り積極的に参加しましょう。**

Q.9 教職員は山村留学を理解し支援していると感じましたか。

A. 山村留学中は、学校も重要な生活の場となります。そのため、校長先生をはじめとした教職員が、山村留学をしっかりと理解し、その教育的な意義を確認した上で支援している体制がなければ、留学生にとっては学校生活が苦痛になってしまいます。

見学や懇談をした際には、教職員がどれだけ熱意をもって山村留学を支援してくれているのかを、じっくりと観察することが大切です。

POINT **学校の理解がなければ、山村留学は成り立ちません。**

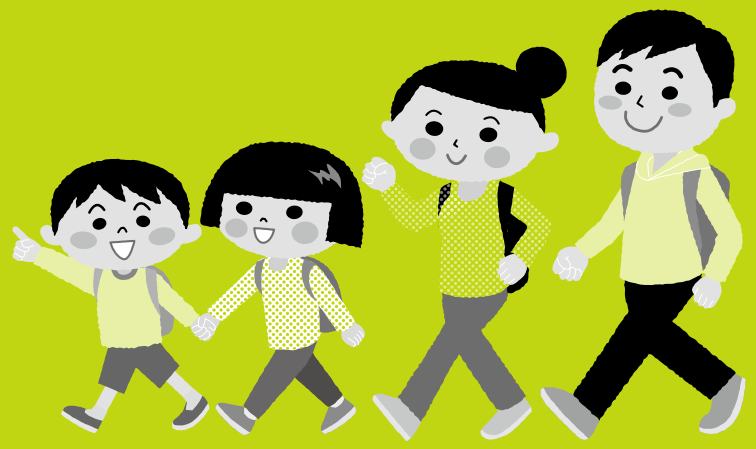
Q.10 地元ＰＴＡは山村留学を理解し支援していると感じましたか。

A. 留学生保護者はＰＴＡの一員として、地元ＰＴＡと様々な交流を重ねていきます。

そうした中で、山村留学に対する地元ＰＴＡの理解が得られないと、学校運営だけでなく山村留学自体の雰囲気も悪くなりかねませんし、地元児童生徒と留学生との対立などに発展してしまう可能性もあります。そのため、教職員と同様に地元ＰＴＡの理解と支援も大切な要件なのです。

POINT **ＰＴＡの良好な雰囲気は大切です。**

7 体験活動



Q.1 教育理念や運営方針に基づいた体験活動が組まれていますか。

A. 体験活動を行う場合に最も重要なことは、活動のねらいや体験することで得られる効果などを明確に定め、教育活動として取り組むということです。ですから、ただやみくもに体験するだけではなく、そこに教育的な意図がなければなりません。

一つひとつの体験活動が、子どもの心身の成長にどのような効果をもたらすのかを考察し、そこに教育活動としての運営団体の考えやねらいが反映されることで、初めて体験活動に教育としての意味が付加されるのです。

POINT **ねらいを明確にして活動が組まれていることが重要です。**

Q.2 年間の活動カリキュラムは作成されていますか。

A. 1年間という長い時間を有効活用するためには、事前に年間活動カリキュラムを策定し、計画的に取り組むことが大切です。更に、カリキュラムの策定にあたっては、農作業などの継続性のある活動や四季を背景とした生活文化体験を取り入れるなどして、山村留学でしか体験出来ない特色ある体験活動を取り入れる工夫が必要です。

POINT **四季折々の体験活動を計画的に実施することが大切です。**

Q.3 起床や消灯など、決められた規則正しい生活をしていますか。

A. 早寝早起きや規則正しい生活は、成長期の子どもの健全な成長には欠かせないものであり、心と体の安定にも繋がる大切なことです。

また、食事作法や入浴といった基本的生活習慣を身に付けることは、「自分のことは自分でできる」という自信を子どもたちに与えてくれます。

POINT **山村留学の大きな体験の一つは、基本的生活習慣の体験です。**

Q.4 伝統文化に触れる体験活動はありますか。

A. 山村留学を実施している地域には、日本古来の年中行事や地域との繋がりが色濃く継承されています。都市化された社会では体験することが難しくなってきたこうした文化に触れることは、脈々と受け継がれてきた日本人の精神に触れることにも繋がるでしょう。

こうした体験は、将来子どもたちが国際社会の中で自信をもって活躍していくために必要な、日本人としてのアイデンティティを育んでくれるのです。

POINT **伝統文化に息づく精神に触れることで、日本人としてのアイデンティティを育みます。**

Q.5 食を題材にした体験活動はありますか。

A. 食は生きる上で最も大切な要素の一つであり、食を通して学ぶことのできる内容は数知れません。

地域の郷土料理に触れることで、秘められた昔の人の知恵や地域の特性を知ることができますし、地産地消に取り組むことで生産者の苦労を知ったり、地域に目を向けたりする姿勢を育むことができます。

そのため、食についての体験活動を多く実施することは、体験の幅の拡大に大いに役立つのです。

POINT **食育の観点に立った体験活動が必要です。**

Q.6 農作業などの生産活動に携わる体験活動はありますか。

A. 米作りを例に挙げると、イベント的に田植えや稲刈りだけを体験した場合、果たしてお米を育てたといえるでしょうか。これでは生産活動に携わる人の苦労などはわかりません。

実際に自分で育てることで、はじめてその価値が分かるのです。

POINT **生産活動を通して、感謝の気持ちと苦労を知ることができます。**

Q.7 地域の特色を活かした体験活動はありますか。

A. 山村留学は地域との結びつきが強い教育活動です。体験の元となる材料（体験材といいます）は地域の中にたくさん埋もれています。

それは自然環境であったり、生活文化であったり、歴史を積み重ねてきた産業や人々の知恵かもしれません。

そうした地域独特の体験材を体験活動の中に取り入れることで、その地域でしか体験できない活動が出来上がります。このことは、その地で生活する留学生にとっても貴重な体験となるのです。

POINT **地域にある体験材を、積極的に有効活用することが必要です。**

Q.8 十分な指導技術のある指導者の元で活動が行われていますか。

A. 活動の目的を達成するためには、十分な指導技術を持った指導者の存在が必要です。また伝統行事などを活動に取り入れる場合には、地域住民に協力を仰ぐことでより本質を捉えた活動を行うことが出来ます。

指導者の指導の仕方一つで、同じ活動内容でも意味合いが大分変ってきてしまうのです。

POINT **活動の良し悪しは指導者の力量によって大きく変わります。**

Q.9 地域外で実施する広域的な活動はありますか。

A. 山村留学中は様々な体験を得られることが理想です。そのため、時には地域を飛び出して広域的なフィールドで体験活動が組まれていることも必要です。

例えば海のない地域でも適度な距離であれば、海沿いに出向いて漁業体験が出来るなどといったケースです。

また、他の山村留学地との合同活動があったり、海外の青少年との交流があったりすれば、より幅広い体験の場として山村留学が生きてくるでしょう。

POINT **時には地域内にこだわらず、体験の場を求めていくことも大切です。**

Q.10 20個以上の体験ができますか。

▶ 体験例については５ページをご覧ください。

A. 自然、人、文化、生活など体験活動に取り入れることのできるものは多種多様です。

自然体験だけ、生活体験だけというのではなく、子どもの可能性と興味関心を広げるためにも、社会のあらゆる事象が体験活動の種だと考えて活動が組まれていることが大切です。

体験の蓄積には、多すぎて困るということはないのです。

POINT **多種多様な体験活動があれば、子どもの心の蓄積も多様になります。**

［ 推進会議　委員名簿 ］

※明石　要一	千葉敬愛短期大学 学長　中央教育審議会 委員
結城　光夫	公益財団法人高崎市文化スポーツ振興財団 副理事長
青木　厚志	公益財団法人育てる会 代表理事
菊川　和広	長野県売木村 教育長　同売木学園 学園長
三好　惇二	山村留学八坂美麻学園 元留学生保護者　全国調査員
渡辺　寛子	神奈川県開成町教育委員会事務局教育総務課主任主事 元山村留学生
吉澤かおり	公益財団法人育てる会八坂美麻学園 主任指導員

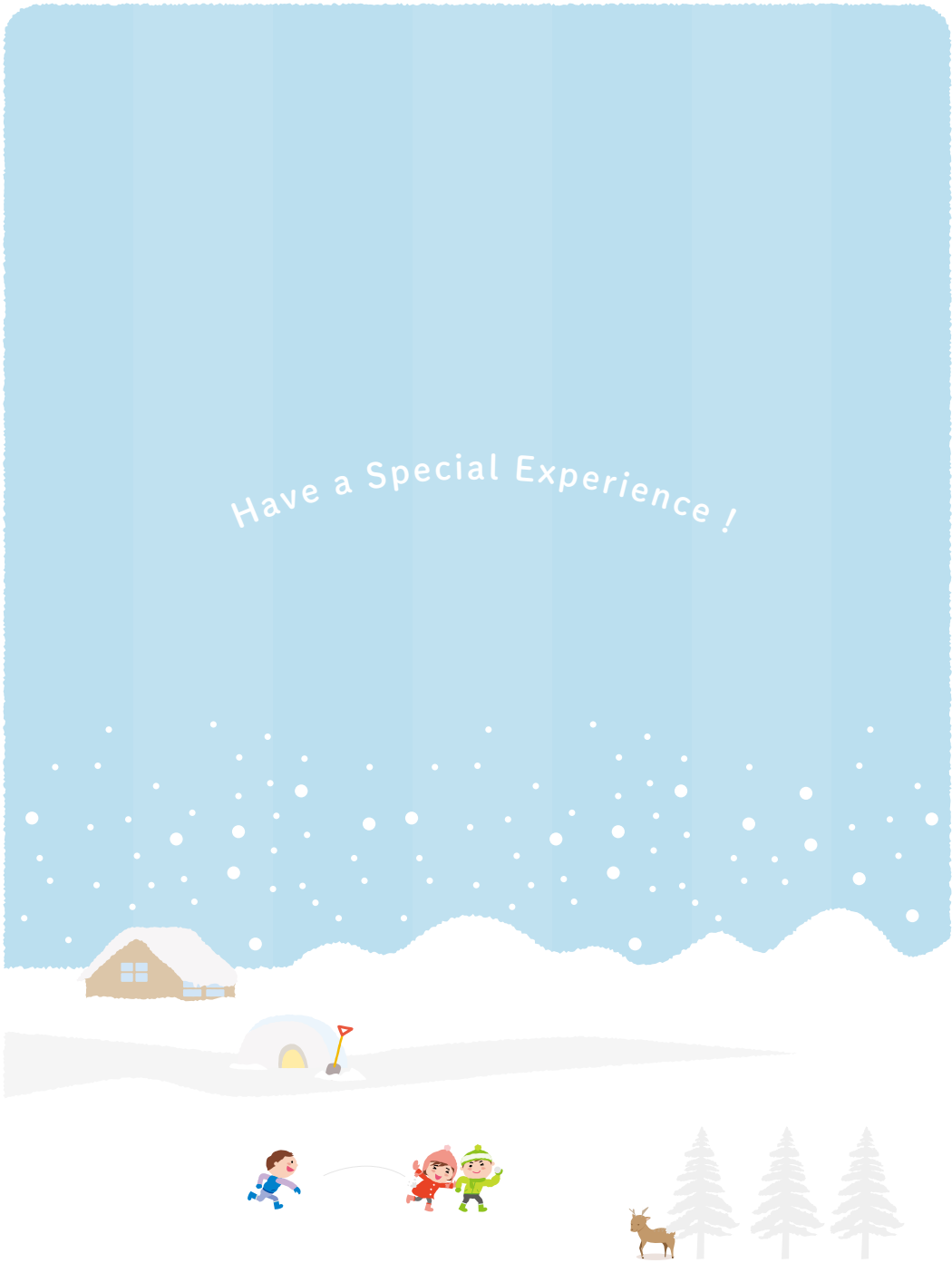
（※座長、順不同、敬称略）

平成 27 年度　文部科学省委託事業
「体験活動推進プロジェクト」（全国的な普及啓発の実施）
「山村留学ガイドラインの策定と普及啓発事業」

平成 28 年 2 月

発　行：特定非営利活動法人　全国山村留学協会
〒 180-0006　東京都武蔵野市中町 1-6-7-5F
TEL: 0422-56-0595　FAX: 0422-56-0351
mail: info@sanryukyo.net
http://www.sanryukyo.net

印　刷：株式会社　文伸



平成27年度 文部科学省委託事業「体験活動推進プロジェクト」
山村留学ガイドラインの策定と普及啓発事業